

支え合いマップ早わかり

(1)なぜ支え合いマップ作り？

- ①超高齢化、認知症や単身高齢者の増。75歳高齢者が3人に1人へ
- ②介護保険は行き詰り、要介護者の生活支援で地域の助け合いに期待
- ③住民は既に助け合っている。マップで発見し、充実させれば効率的

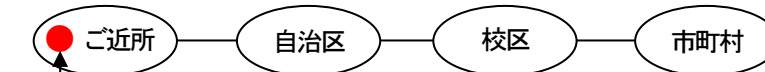


(2)支え合いマップづくりとは？

住民の関わり合いを線で結ぶ。要援護者に誰が関わっているか等を調べ、地域の取り組み課題を抽出する。

(3)マップづくりはご近所で

- ①人々は50世帯で助け合っていた
- ②ここを「ご近所」と呼ぼう
- ③要援護者はご近所に住んでいる
- ④ご近所さんの支えが頼り
- ⑤そこで助け合いのご近所づくりを



(4)プライバシーの問題は？

- ご近所の人のご近所内の気になる人の情報を出し合い、解決策を考える
- これはご近所ケア会議
- 行政からの情報は持ち出さない。井戸端会議で出される情報だけを使う
- マップ情報はご近所内に閉じ込める

①マップ作りを開始

②課題探し

- 目標は「要援護でも地域で自分らしく生きられるように」
- 50世帯のご近所毎にマップ作り
- ご近所から5人程度集める
- 「気になる人・こと」を探し、対策のヒントもマップで探す

気になる人

- 関わり合いの線を引く
- 一人暮らし、老々、デイ利用者、施設入所者、障害者、引きこもり等
- 安全、困り事、介護、豊かな生活

気になること

- 買い物・通学が不便。災害対応に問題。子どもがいない。交通安全に問題。坂が多くて不便等。
- 認知症を隠す地域。デイサービス利用者が多すぎる等

③ここが問題

④解決のヒント探し

⑤これが解決策

- 当人はどんな解決努力を？
- 周りの人はどんな支援を？
- 解決に繋がる人や活動は？
- なるべく住民の助け合いで
- ご近所の人たちの手で